

## ロールプレイ

ロールプレイは、現実の状況や架空の状況を設定し、学生に特定の役割を与え、その役割に合った発言や動作を即興で演じさせる経験学習です。

ロールプレイは大きく分けて、語学教育などの役割に応じた発言や動作の内容そのものを目的にするものと、役割の疑似体験を通じて問題の理解を深めるものの二つがあります。

科目名：アフリカ学入門

担当者：阪本公美子 先生（国際学部）

阪本先生の授業では、タンザニア南東部農村の人々の暮らし、男女分業について考えるきっかけとしてロールプレイが活用されています。

農村の現状や男女分業についての講義を受けた後、受講生はプロフィールの書かれたロール・カード（右）をひき、家族ごとにグループ（金持ち商人家族、堅実農家家族など）に分かれます。

その後、女性ロールの受講生を中心に、水汲みと脱穀を体験します。また、次週は村における課題をもとに、家族会議や村会議を演じていきます。

ロールプレイ後は、教員から補足説明を行った後に、男女分業や農村の暮らしについて振り返りを行っています。その中で、受講生は「体験してはじめてわかることがあった」「ロールプレーをしてみて、村内での格差の大きさを実感した」等といった感想をげており、実際に体験することや役割を演じることによって、身近な問題でなくとも、実感を伴った深い理解につながっていることが伺えます。



（水汲み・脱穀の様子）